自閉症者地域生活支援センターなないろ

# NEWS LETTER

Vol.11
2023年 8月

北海道の夏はお盆を過ぎるとぐっと肌寒くなると言われていたのは今は昔、、、とっても暑いですね。
北海道らしくない夏が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

今回はなないろ内での常設委員会・プロジェクト、そしてその取り組みについてご紹介いたします。

## 2023年度の取り組み（常設委員会・プロジェクト編）

2021・2022年度までは、利用者年収向上計画プロジェクト、画期的個別支援計画プロジェクト、おしゃれな生活プロジェクト、地域一番の支援力＆人権意識プロジェクト、環境・衛生ハイクオリティプロジェクトの5つがありましたが、2023年度はそれらを整理統合して2＋1のプロジェクトでスタートしています。

利用者年収向上計画 P → **利用者年収向上計画 プロジェクト**
- アート作品を発信する機会の模索
- 新たな作業の模索、グッズの作成を通して工賃獲得

等々

おしゃれな生活 P
画期的個別支援計画 P
地域一番の支援力 ＆ 人権意識 P
環境・衛生 ハイクオリティ P

→ **確かな支援＆人権意識 プロジェクト**
- 権利擁護についての配信
- 個別支援計画についての提言・試行の配信

等々

→ **おしゃれで快適な生活 プロジェクト**
- おしゃれや衛生に関する広報活動
- おしゃれ企画、環境美化・衛生に関する企画実施

等々

### [ なないろ農園 ]

昨年に引き続き、この夏もなないろに農園ができました。
ミニトマト、きゅうり、枝豆などなど多くの作物を植え、世話も収穫も利用者の皆さんの手も借りて農園を作っています。収穫されたものは皆さんの食卓にあがったり、活動の合間におやつとして皆さんの口に入ったり。
年々拡大している農園は来年にはどのような広がりを見せるのかこれからもご期待ください。

自閉症者地域生活支援センターなないろ

# NEWS LETTER

Vol.11
2023年 8月

## 利用者年収向上計画プロジェクト2023の取り組み

年収向上プロジェクトでは、作業の模索やアート制作活動を行うことで、工賃獲得することを目指したプロジェクトとなります。現在なないろで活動されている利用者の皆さんは数年前に別事業所から移行となり、移行に伴いそれまで活動で得ていた工賃が減額となってしまいました。

減額した工賃を改めて獲得すること、また利用者の皆さんの特性やスキルに見合った活動や創作活動を模索することも今後の課題となっています。今期では主に創作活動の面を重視しており、利用者の皆さんが描いたイラストを基にラインスタンプやメモ帳を作成しています。動物のモチーフをあしらった一品となっています。

なないろの入り口にもミニコーナー（左写真）を用意してご紹介しています。
お立ち寄りの際にはぜひご覧ください。

なないろのアート活動から生まれたLINEスタンプを販売しています
内容は左のQRコードを読み込んでご覧ください
アート活動・創作活動からの作品は順次更新予定です

利用者年収向上計画プロジェクトでは内部検討だではなく、外にも出て、
内部でのやり取りだけではなかなか触れない情報も持ち帰ってきて、次につなげていくための動きもしています。

今回は北海道障害者職業センター主催の就労支援セミナーのうち、「分かりやすく教える技術」について学んできました。

**【研修報告】**「就労支援セミナー@ポリテクセンター」に参加してきました！

先日、ポリテクセンターで行われた就労支援セミナー「分かりやすく教える技術」に参加してきました。セミナーでは主に課題分析について学びました。強度行動障害者支援に携わるうえで非常に大切なキーワードになります。せっかくなので今回は学んだことをご報告します。

**課題分析とは・・・行動をより細かな行動単位に分析して、手順を時系列に沿って記述（具体的に言語化）していくこと**

課題分析では対象者がどこでつまずいたかを観察することも重要です。就労支援の現場において対象者のつまずきのポイントを明らかにすることが指導者の適切な介入につながります。

与えられた仕事は、課題分析を用いて１つの大きな課題を小さな課題に分割することによって苦手意識を小さくすることができます。ゴールが遠くに見えているだけでは１歩目を踏み出す勇気が出ないことがあります。しかし１つ１つの工程を明確にして１歩ずつ着実に進んでいけばいつかゴールにたどり着けるかもしれません。課題分析は障害を抱えた人に限らず、すべての人にとって課題を達成するための大きな手助けとなってくれるはずです。

ジョブコーチ支援の概要について説明を受け、システマティック・インストラクション、職務分析（課題分析）について演習を交えて学習を行いました。

システマティックインストラクションとは、対象者への介入度合いについて順序だてて教えていくことであり、自立度・理解度の度合いに合わせて最も効果的な教え方を選択することとなります。介入度合いは主に5つほどで、①ヒントなし、②言語教示、③身振り、④お手本、⑤身体的誘導、となっており、番号が大きいほど介入度合いのレベルも大きくなっていくことになります。システマティックインストラクションを活用することの利点として、どの職員も同じ教え方をすることができたり、最小限の介入により対象者が仕事を自立して行うこともできるなどがあります。

介入度合いのレベルが同じでも伝え方には大きな差があり、なにを重視していくのかが職員によって大きく異なるものだと感じました。それは正解、不正解はなく、対象者の状態や職員のこれまでの経験に依って異なってくるもので、より現場に逢っている方法を模索していくことが職員の役割ではないかと感じました。

それぞれの部署、プロジェクトの活動の様子については今後もお知らせいたします。